

<第95回調査>

2017年4月24日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2017年4月11日(火)13:00~2017年4月18日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。

今回の有効回答数は767件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

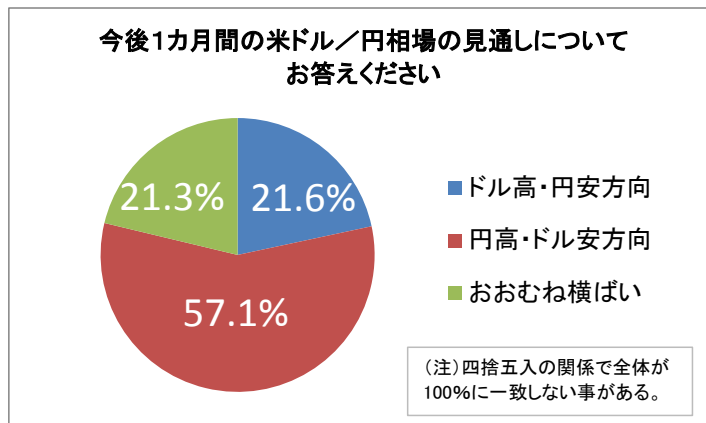
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第95回調査結果略報：ドル弱気見通し、過去最高に】

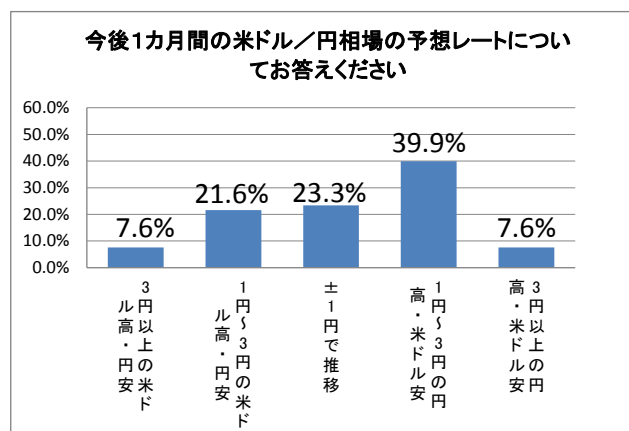
問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が21.6%であったのに対し「円高・ドル安方向」と答えた割合は57.1%であった。この結果「米ドル/円予想DI」は▼35.5%ポイントとなり、前回の△28.6%ポイントから一転してマイナス圏に転落した。なお、マイナス幅は調査開始以来の最大値となった。調査期間中の米ドル/円相場は、108.10円台まで下落して約5カ月ぶりの安値を付けるなど、地政学リスク(北朝鮮・シリア・アフガニスタン)の高まりを受けて軟調推移が目立った。この過程で、強いサポートと見られていた110.00円を下抜けており、こうした相場展開が個人投資家の弱気見通しに拍車をかけたと考えられる。※過去の米ドル円予想DIの推移はP7-8に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル安・円高」が39.9%と最も多く、「±1円で推移(23.3%)」、「1円～3円の米ドル高・円安(21.6%)」と続き、「3円以上の米ドル高・円安(7.6%)」と「3円以上の円高・米ドル安(7.6%)」が並んだ。ヒストグラムの形状は米ドル安・円高側に傾いており、問1の結果と整合的と言える。ただ、「3円以上の米ドル安・円高」との回答がごく少数であるように、米ドル/円相場の一方向的な下落を見込む向きは少ない。調査期間中の相場水準から考えると、節目の105円を次の下値のメドと見ている向きが多いのかもしれない。

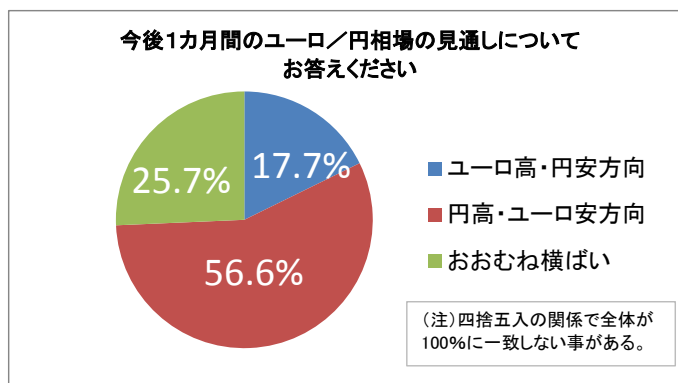


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

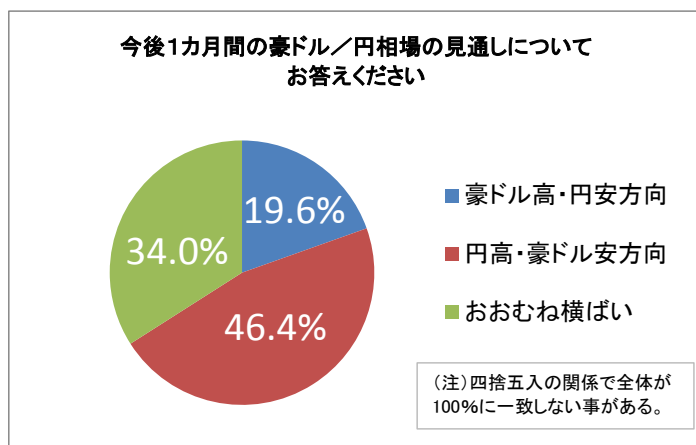
「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が17.7%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が56.6%であった。この結果、「ユーロ/円予想DI」は▼38.9%ポイントと、4カ月連続のユーロ弱気予想となるとともに前回(▼9.8%ポイント)からマイナス幅が拡大した。調査期間中のユーロ/円相場は、117円台半ばから、約5カ月ぶりの安値となる114円台後半へと下落。その後、やや持ち直しているが、仏大統領選の第1回目の投票(23日)が迫る中、反EUを掲げる極右と極左の候補がいずれも支持率上位に名を連ねている事が不安材料となっている。個人投資家もそうした点を踏まえてユーロ弱気予想を強めたものと思われる。※過去のユーロ円予想DIの推移はP6-7に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が19.6%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は46.4%であった。この結果「豪ドル/円予想DI」は▼26.8%ポイントと、3カ月ぶりにマイナス圏に転落。マイナス幅は2016年1月以来の大きさとなった。調査期間中の豪ドル/円相場は、主に地政学リスクの高まりを嫌気して下落。一時81.80円台まで値を下げて約5カ月ぶりの安値を付ける場面もあった。個人投資家が、北朝鮮暴発リスクへの警戒感を強めているという事でもあろう。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP6-7に掲載。



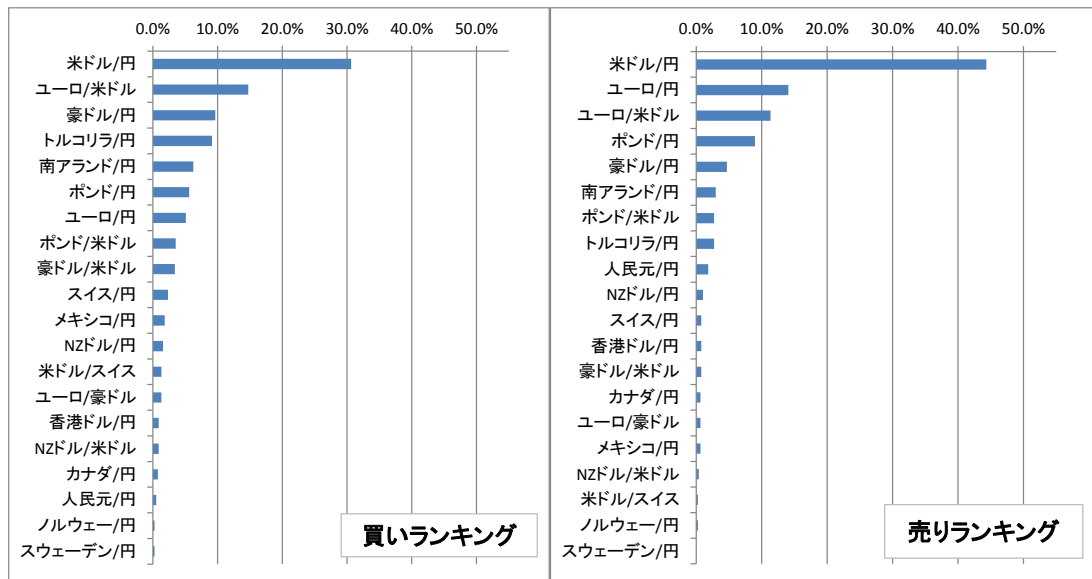
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目の通貨ペアは、米ドル/円が30.6%の回答割合を集めて1位であった。以下、ユーロ/米ドル(14.7%)、豪ドル/円(9.6%)、トルコリラ/円(9.1%)、南アランド/円(6.3%)の順に続いた。米ドル/円が連続首位記録を55カ月(4年7カ月)に伸ばしたが、2位との差は縮小した。また、3位~5位に「高金利通貨」のクロス円ペアが並んだ点が特徴的だ。いずれも、地政学リスクの高まりに弱いはずのペアであり、足元の相場環境には相応しくない順位のようにも思えるが、一部の個人投資家はリスク回避の動きによる相場の下落局面を押し目買いの好機と受け止めているのかもしれない。

一方、「売り」で注目の通貨ペアでも米ドル/円が44.3%の回答割合を集めて6カ月連続で首位をキープ。回答割合が「買い」で注目のそれを上回った点は、米ドル/円予想DIが過去最大のマイナス幅を記録した問1の結果と整合的だ。2位以下の順位は、ユーロ/円(14.1%)、ユーロ/ドル(11.3%)、ポンド/円(9.0%)、豪ドル/円(4.7%)と続いており、欧州通貨への売り意欲が比較的強い事がわかる。個人投資家は紛争・有事などの地政学リスクよりも、選挙・政局などの政治リスクを重く見ているという事だろう。

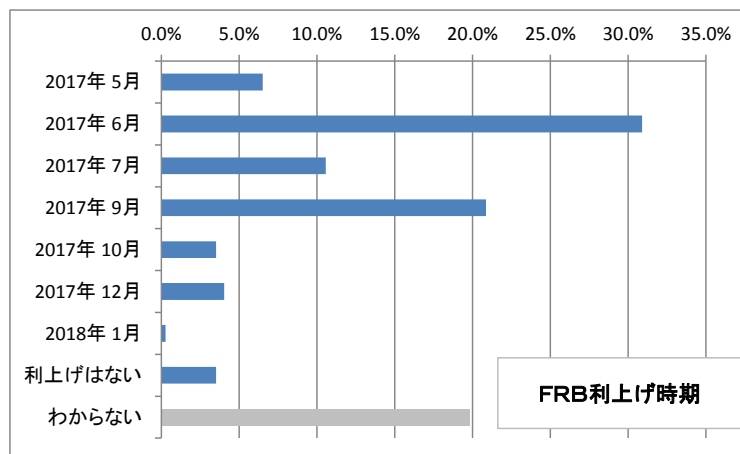


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された 意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問6: 米FRBが次に政策金利の引き上げする時期は？(ひとつだけ)

今回の特別質問として、「米FRBが次に政策金利の引き上げする時期は？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「2017年6月」が30.9%と最も多く、次いで「2017年9月(20.9%)」、「2017年7月(10.6%)」、「2017年5月(6.5%)」、「2017年12月(4.0%)」と続いた。なお、「利上げはない」との回答も3.5%あった。なお、本稿執筆時点における米6月利上げの確率(先物市場の織り込み度合い)は5割前後であり、9月までに少なくとも一回の利上げが行われる確率は7割近くに上る。個人投資家の米利上げ見通しはやや消極的と言えるかもしれない。そうした見通しが、米ドル/円相場の弱気見通しの背景となった可能性がある。

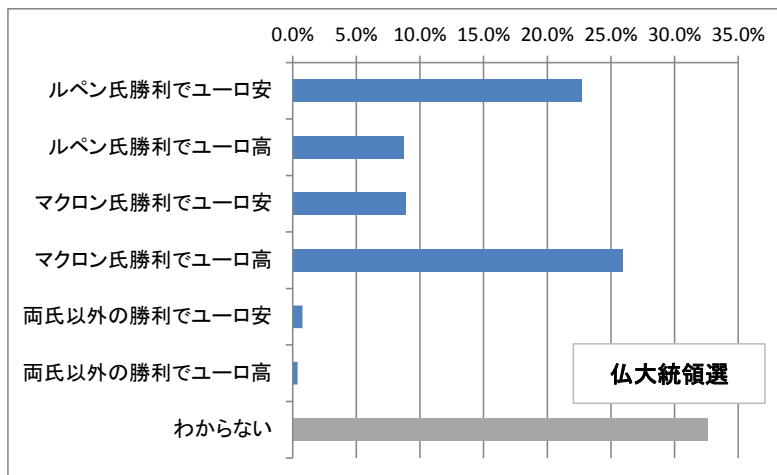


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問7: 4月23日に行われる仏大統領選(過半数の支持を獲得した候補者がいない場合は5月7日に決選投票へ)は、反移民・反ユーロを掲げる「国民戦線」のルペン党首と、親EUのマクロン前経済相の二人が有力候補とされています。この大統領選の結果と、ユーロ相場の反応についてどう予想しますか。(ひとつだけ)

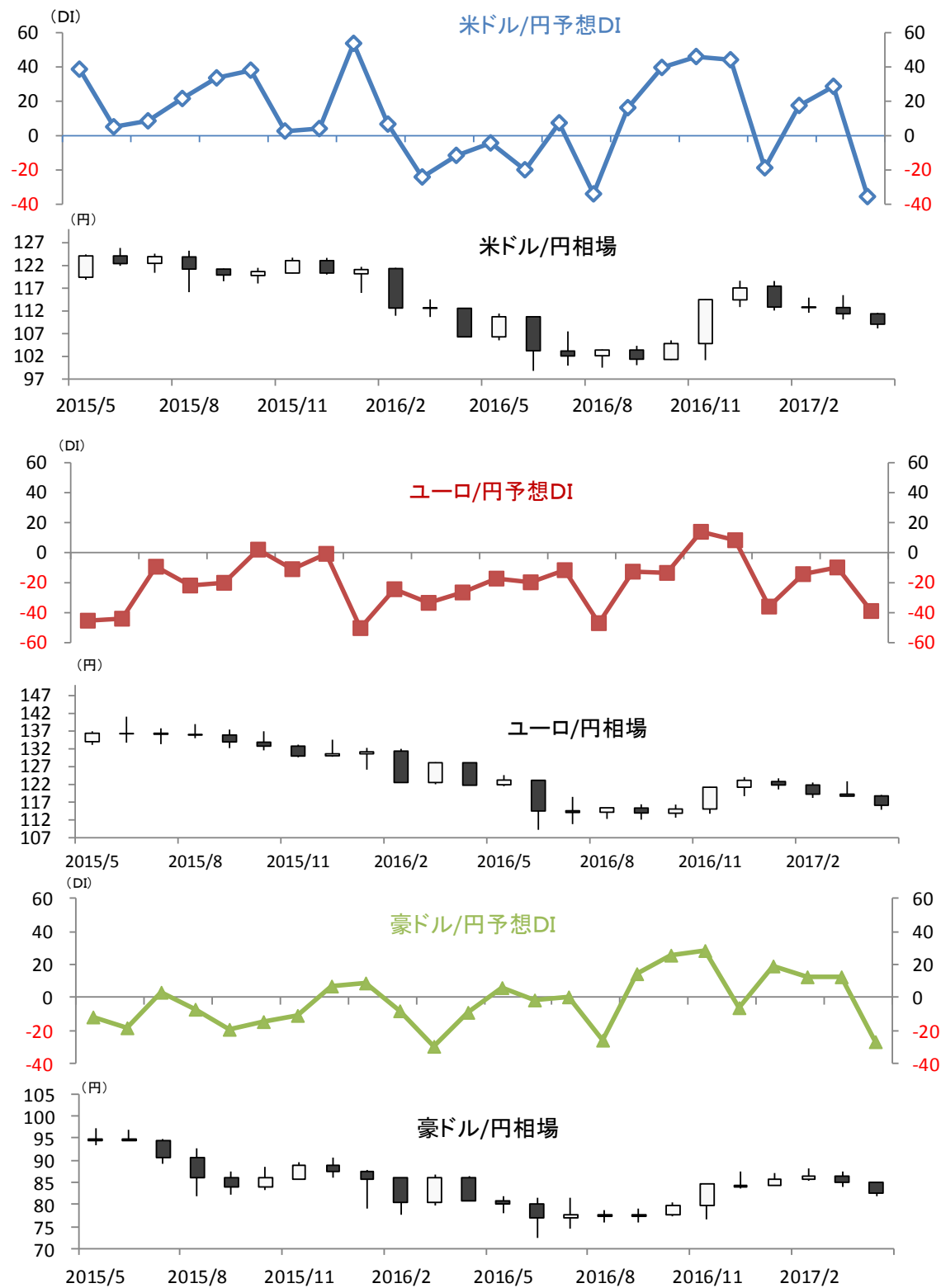
今回の特別質問として、上記のように尋ねたところ、「わからない」と答えた割合が32.6%と最も多かった。次いで多かったのは「マクロン氏勝利でユーロ高(25.9%)、次に「ルペン氏勝利でユーロ安(22.7%)」が続いた。両氏が5月7日の決選投票に進んだ場合の支持率に関する世論調査は概ね60%対40%でマクロン氏の勝利を示唆している。その点、個人投資家の見立てはややルペン氏寄り(ユーロ安)と言えるかもしれない。また、足元では急進左派のメランション氏が支持を伸ばしており、フィヨン候補も含めた「4つどもえ」の戦いとなっている。個人投資家は、ルペン氏とマクロン氏以外が勝利する可能性を低く見積もっているように見える。なお、回答理由を自由記述形式で尋ねたところ、「わからない」とした向きからは「選挙の結果については予想しない」との声が上がっていた。昨年の欧州連合(EU)離脱を問う英国民投票や、米国の大統領選など「予想外」の結果が相次いだ事が影響しているのだろう。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第95回目となりました。調査開始から7年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年中央以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

| | | 米ドル／円 | | | ユーロ／円 | | | 豪ドル／円 | | |
|-------|-----|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------|
| | | 米ドル高 | 米ドル安 | DI | ユーロ高 | ユーロ安 | DI | 豪ドル高 | 豪ドル安 | DI |
| 2015年 | 5月 | 29.1 | 20.5 | 8.6 | 31.0 | 40.4 | -9.4 | 32.2 | 29.1 | 3.1 |
| | 6月 | 43.5 | 21.9 | 21.6 | 25.4 | 47.2 | -21.8 | 24.3 | 31.3 | -7.0 |
| | 7月 | 49.1 | 15.5 | 33.6 | 23.6 | 43.7 | -20.1 | 22.8 | 41.7 | -18.9 |
| | 8月 | 51.1 | 13.1 | 38.0 | 30.9 | 28.8 | 2.1 | 24.1 | 38.5 | -14.4 |
| | 9月 | 37.1 | 34.5 | 2.6 | 24.9 | 35.8 | -10.9 | 29.9 | 40.7 | -10.8 |
| | 10月 | 30.3 | 26.2 | 4.1 | 30.3 | 31.1 | -0.8 | 39.6 | 33.0 | 6.6 |
| | 11月 | 67.3 | 13.6 | 53.7 | 11.1 | 61.4 | -50.3 | 34.4 | 25.6 | 8.8 |
| | 12月 | 43.8 | 37.1 | 6.7 | 19.7 | 44.1 | -24.4 | 30.5 | 38.4 | -7.9 |
| 2016年 | 1月 | 27.3 | 51.5 | -24.2 | 19.2 | 52.6 | -33.4 | 22.8 | 52.5 | -29.7 |
| | 2月 | 34.7 | 46.3 | -11.6 | 22.5 | 49.0 | -26.5 | 32.3 | 41.3 | -9.0 |
| | 3月 | 33.3 | 37.6 | -4.3 | 24.8 | 42.1 | -17.3 | 37.6 | 31.8 | 5.8 |
| | 4月 | 30.2 | 50.2 | -20.0 | 24.2 | 43.9 | -19.7 | 34.2 | 35.7 | -1.5 |
| | 5月 | 40.8 | 33.4 | 7.4 | 22.6 | 38.2 | -11.6 | 35.7 | 35.3 | 0.4 |
| | 6月 | 26.3 | 60.2 | -33.9 | 20.0 | 67.0 | -47.0 | 24.8 | 50.5 | -25.7 |
| | 7月 | 48.3 | 32.1 | 16.2 | 32.1 | 44.7 | -12.6 | 44.2 | 29.8 | 14.4 |
| | 8月 | 26.5 | 48.9 | -22.4 | 17.2 | 48.1 | -30.9 | 25.9 | 40.2 | -14.3 |
| | 9月 | 34.5 | 36.8 | -2.3 | 23.8 | 38.0 | -14.2 | 28.4 | 35.4 | -7.0 |
| | 10月 | 57.3 | 17.6 | 39.7 | 24.2 | 37.7 | -13.5 | 43.3 | 23.0 | 20.3 |
| | 11月 | 65.9 | 19.9 | 46.0 | 38.7 | 24.8 | 13.9 | 47.0 | 21.2 | 25.8 |
| | 12月 | 64.4 | 20.2 | 44.2 | 36.6 | 28.3 | 8.3 | 50.0 | 21.6 | 28.4 |
| 2017年 | 1月 | 35.2 | 54.0 | -18.8 | 18.3 | 54.1 | -35.8 | 28.9 | 35.5 | -6.6 |
| | 2月 | 46.2 | 28.7 | 17.5 | 23.8 | 38.1 | -14.3 | 41.9 | 23.1 | 18.8 |
| | 3月 | 53.3 | 24.7 | 28.6 | 27.6 | 37.4 | -9.8 | 36.1 | 23.1 | 13.0 |
| | 4月 | 21.6 | 51.7 | -35.5 | 17.7 | 56.6 | -38.9 | 19.6 | 46.4 | -26.8 |

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com